

〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	ふくわたり・ふれあい・ふくし祭り
28年度募集テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 『笑顔』 <input checked="" type="checkbox"/> 『場づくり』 ※該当テーマに <input checked="" type="checkbox"/> してください。
テーマとの関連	<p>◎テーマをどのように受け止め、貴団体の取組と合致すると考えたのかをお書きください。</p> <p>「ふくわたり・ふれあい・ふくし祭り」は、特徴的な「福渡」と言う地名を活かすことと、笑顔を意味する「ふふふ祭り」と略して呼ばれることを意図して名づけられ、イベント中は口や頬が緩んで「ふふふ」と微笑むことができるようなアトラクションや、来場者が座ってお喋りに興じられるようなスペース作りを心がけている。</p> <p>また、福渡地域はJR福渡駅や岡山市建部支所を中心に歩いて移動できる範囲に生活資源・社会資源がそろっており、障害者や高齢者にとって自立した生活が営める環境である。これから先も安心して生活するために、これ以上の地域活力低下を防ぎたい。そのために、イベントを通して今一度地域の魅力を多くの地域住民とともに考え共有する場作りとして、イベントを企画した。</p> <p>イベントは1日のみだが、日常的に支え合うことができる関係を構築するきっかけの場となることを狙っているため、本事業は「笑顔」「場づくり」両テーマに則していると考えた。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>◎取組の目的、解決をはかりたい社会課題の状況把握・ニーズ把握、解決後の姿（目標としている状況）などについて記載してください。</p> <p>旧建部町は岡山市が定める「岡山市過疎地域自立促進計画」の唯一の対象地域である。人口は昭和35年には11,039人、平成22年には6,075人、平成28年9月では5,680人と減少している。特に若者は大学進学などを機として建部町を離れ、Uターンすることなく都市部や市街地に近い地域で就職し定住し、都市部へ流出する傾向が顕著である。若者の流出から、地域の祭りなど共同行事への参加が減少するなど、地域活動も低下している。</p> <p>若者が地域に戻らない原因として、働き口の少なさが挙げられるが、建部町地域は昔から「行こうか岡山、もどろか津山、ここが思案の深渡し（福渡）」と言い伝えられている俚歌として歌われるように、岡山県の南北の主要都市である岡山市・津山市の中間に位置しJR津山線の福渡駅・建部駅があり、車で移動しても国道53号により一時間弱で両都市へアクセスできる利便性の良さがあり、自然豊かな環境で生活しながら市街地へ通勤することも可能である。</p> <p>そうした魅力が若い世代に伝わっていないことが、若年層の流出に繋がっていると考えられる。</p> <p>また、建部町の中でもデイサービスや病院、地域活動支援センターが所在し、行政窓口や金融機関、商店もある福渡地域は、高齢者や障害者が福祉サービスを受けるために訪れれば、歩いて行動できる範囲で他の用事も済ませられる利便性の高い環境にある。買出しや各種手続きが自分の手で行えることは、自立生活には欠かせない要素であるが、</p> <p>こうした環境を維持していくためには福渡地域からこれ以上社会資源・生活資源が減少しないことが必要である。</p> <p>今は車の運転ができて都市部へ気軽に移動ができる世代でも、身体の衰えからいつか車生活から遠ざかる日がくるが、その時にも暮らしやすい福渡の環境が維持できるよう本事業を実施することで、まずは地域の魅力を地元住民が再発見し、次にそれを町内外へ発信することで住民が故郷で生活していける自信を見出し、流出を防ぎ、また町外から建部町への移住希望者を増やすことで産業衰退や生活環境の悪化を食い止める。</p>

	<p>地域活動の低下から住民同士の繋がりも薄れていくと近所同士で助け合う関係が失われてしまう恐れがある。地域にどんな住民が暮らしているのか、世代を問わず集える機会を設け交流を深めることで普段の暮らしで支えることができる関係づくりを目指す。</p> <p>岡山市唯一の過疎地が活性化することで、岡山市全体の人口減少に歯止めをかけ、住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正及び美しく風格ある国土の形成に寄与することを目指す。</p>
<p>取組の内容</p>	<p>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等</p> <p>福渡小学校区の住民：約1,850人（平成28年10月時点）</p> <p>2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等</p> <p>ふふふ祭り実行委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NPO法人なでしこ会：理事10名、監事2名 2. 福渡上・下区町内会：役員10名 3. メンタルボランティアさくらの会；20名 4. 障害者生活支援センターこら～れ：職員5名 5. 岡山市社会福祉協議会 建部分室：分室職員1名 6. 建部町公民館：職員5名 7. 建部町観光協会：理事14名、監事2名、職員3名 8. 福渡小学校：職員約15名、生徒57人 9. 建部町在宅福祉サービスセンター ほのぼの荘：10名、利用者20名 10. 特別養護老人ホーム 旭水荘：スタッフ20名、利用者20名 11. タネピリカ（移住者グループ）：約10名 12. なでしこの会家族会（障害者家族会）：17名 13. 建部町ポイントカード協会：約7名 14. なでしこ共同作業所：スタッフ5名、利用者11名 <p>来場者：約350名</p> <p>3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。</p> <p>毎年10月中旬に建部町公民館と岡山市北区役所建部支所駐車場を会場に地域交流イベントを開催する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福渡地区住民を中心に、地域外の方々との交流の場を提供する 2. 参加団体による食べ物、飲み物、手作り作品の販売 3. 「オープニング」：建部はっぽね太鼓による演奏。OKAYAMA!市民体操甲子園で受賞した建部町地域の栄養委員・障害者生活支援センター利用者による実演でOKAYAMA!市民体操を来場者で行う 4. 「ふふふ音楽広場」：建部町公民館講座・地域の趣味サークル・建部中学校による音楽発表 5. 地域の各事業所が活動を紹介する展示コーナー 6. 情報ファイルの設置：地域のイベントやお知らせ・詐欺注意や防火など啓発チラシをファイルにして飲食テーブルに設置する。 7. 参加型アトラクション「みんなで踊ろう！たけべよいとこ」：建部町の愛唱歌と踊りを若い世代に引き継ぐため、会場で踊りの輪を作る。 8. 「福っ子ポスター展示会」：福渡小学校生徒有志にイベント広報のためのポスターを作成してもらい、商店街に展示する。

9. 「うふふ・見どころ夢マップを作ろ〜う!」: 建部町公民館ESD推進事業として、建部おこしプロジェクトがコーディネーターとなり、地図を作成するワークショップを行う。(過去に事務局が「福渡夢マップ」としてワークショップを実施していたものを、建部おこしプロジェクトが引き継ぎブラッシュアップする計画だった) ※第8回目に初開催予定だったが、悪天候が予想されたため中止になり未実施
10. 「福当たりビンゴ大会」: 商工会、ポイントカード会の協力によるビンゴ大会

4 取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。

Facebook のイベントページを作成

- 第8回ふくわたり・ふれあい・ふくし祭り
→ <https://www.facebook.com/events/149405255485108/>
- 第7回ふくわたり・ふれあい・ふくし祭り
→ <https://www.facebook.com/events/130839483920426/>
- 第6回ふくわたり・ふれあい・ふくし祭り
→ <https://www.facebook.com/events/308407392665749/>
- 第5回ふくわたり・ふれあい・ふくし祭り
→ <https://www.facebook.com/events/560193300713501/>

<p>協働の体制</p>	<p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など、具体的に記載してください。</p> <p>①事務局をなでしこ会が担い、企画ごとに責任団体をきめて実行している 参加団体が多いため、取りまとめ団体を決めている。例えば、音楽広場の出演団体は建部町公民館、ボランティア建部や身体障害者福祉協議会は岡山市社会福祉協議会建部分室など、活動拠点となる組織に出演オファーや書類の受け渡しをまとめてもらい、事務局が全ての参加団体と交渉する負担を分散した。</p> <p>②福渡の将来像を一緒につくり目的を共有した 平成23年には、福渡地域の資源の確認、地域の可能性やそれらを活かした理想の地域像を実行委員会でまとめた「福渡夢プラン」を作成し、イベントを通してどのような町を作りたいか具体的なイメージを共有した。 プランには福渡がコンパクトシティとして機能できること、障害者・高齢者支援の施設や病院があり福祉サービスが集中していること、地域に失せ物の神様「畦越（あぜこし）様」の社があることなど、今ある資源を確認し、それらを活かして、「元気で長生きしたいなら、福渡が一番。モノを売る商店街から、生活丸ごと支える町へ。あぜこし様をシンボルに「岡山の巣鴨」をめざそう！」「福を渡し、福が渡る町」としてまとめている。 目指すイメージは高齢者が多く集まりにぎわう東京の巣鴨で、全国の高齢者が自然豊かでありながら生活しやすさも兼ね備えた福渡地域で老後を通じたいと移住を希望する町である。プランは来場者にも配布し、内容の更新も検討している。 各団体が実施している事業を理解尊重したうえで、地域づくりに参加することへの負担がないように配慮する。同時に、地域活性化すれば参加団体にどのようなメリットがあるか参加する際に確認してもらう。</p> <p>③活動エリアを限定し、福渡小学校区から建部町全体の活性化をすすめようと協働の範囲を決定した 本事業だけで建部町地域全体の活性化を目指すことは難しいと感じたこと、企画立ち上げの頃に同町内の他の二つの小学校区でも地域活性化イベントが企画実施されはじめたことから、本事業では活性化を目指す地域を福渡小学校区と捉えた。建部町内でも福渡小学校区は岡山市役所の支所、金融機関、病院、商店などの社会資源が集中していることから、福渡小学校区の活性化は建部町内全域に影響があるものと考え取り組んでいる。</p>
<p>取組の工夫 取組の特徴</p>	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点を記載してください。</p> <p>福渡地域にある福祉関係団体はもちろんのこと、地域イベントとするため関係団体を広げ、また地域にある文化資源の活用を広げてきた。 オープニングや音楽広場では、建部はっぼね太鼓をはじめ、公民館講座など地元で活動しているグループに出演してもらうことで、発表の場として活用してもらい、活動をPRすることで新規メンバー獲得にも繋げてもらっている。 イベント開催に必要なテントやイス、机などの装備品は、参加団体や町内の施設が所持している備品を借用することで、レンタル料などを節約している。また、各団体が所持している備品の種類や数量情報を参加団体が共有することで、他のイベントでも活用しやすくし、団体同士の交流を図る機会とする。 人的資源の活用については、実行委員メンバーが中学校のPTA役員をしていることから学校にイベントの趣旨を伝えてもらうことで関係構築がスムーズにいくなど、これまでの協働団体や関係者から新たな人脈を繋げてもらうことができた。</p>

	<p>また参加事業者の中には在勤者であると同時に地域の在住者であることも多く、公私に渡って関わってもらうことができた。</p> <p>在勤者として参加する場合には、所属事業所に勤務時間内に業務の一つとして人材を提供してもらうことで、協力者に負担を背負わせないように努めた。</p> <p>◎取組の特徴やアピールポイントを記載してください。</p> <p>一般的には地域から支援してもらう側になりがちな障害者支援施設が、障害者が暮らしやすい町づくりのために地域に呼びかけてはじめたイベントであり、運営施設の敷地内で開催するものではなく、地域の中心地である岡山市建部支所周辺を会場にし、地域の多分野団体と協働して開催するものである。</p> <p>当会が事務局を担うことで、会が地域に与える影響や障害保健福祉への理解を深めてもらい、当会が運営する施設利用者が地域に帰っても暮らしやすい環境を整えることが狙いである。</p> <p>運営費について、各団体が持ち出し持ち帰りをしており、補助金や助成金に頼らない経費のかからない運営となっている。</p>
<p>成果・効果</p>	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを記載してください。</p> <p>①福祉まつりから福祉を柱にした地域まつりへの発展</p> <p>ふふふ祭りが開催されるまでは、住民が交流を目的に集う機会が少なかったが、ふふふ祭りが企画されてからは年に一度の地域行事となっている。</p> <p>また、会場について、福祉建部町在宅福祉サービスセンターほのぼの荘を借りて行っていたが、「ふくし祭り」を高齢者福祉、障害者福祉と対象を限定したものと捉えられる傾向があることから、4回目の開催から福渡地域の中心地であり公共の場である岡山市北区役所建部支所駐車場と建部町公民館に移した。その頃から、事務局である当会が声をかけやすかった福祉関係団体と町内会という狭い協働範囲が広がり、商工会や観光協会、教育関係団体など多分野の団体が加わった。結果、誰もが立ち寄りやすい環境になり来場者も100名から350名に増えた。</p> <p>来場者からは「以前は福祉関係者だけのお祭りだと思って、部外者は入ってはいけないと思っていたが、今は気軽に寄りやすい」と言った声も聞かれた。会場となる公民館も講座の発表の場として活用してもらうことができた。</p> <p>来場者アンケートからは「楽しかった」「来年も楽しみにしている」と言った感想が寄せられ、中には準備に関わる人たちが同じ地域住民であることから準備の大変さを労う声も添えられている。</p> <p>②福祉施設が地域に溶け込み地域に支えられるように</p> <p>施設に対する効果として、普段の活動では分野が違う団体の情報は入りにくいが、ふふふ祭りを通して地域に「こんな団体があったのか」「名前だけは知っていたが、イベントを通して活動内容を知ることができた」など、団体同士の繋がりが増え、日常でも物品の貸し借りをするなどの関係づくりができた。</p> <p>施設のスタッフが地域住民と触れ合う機会が得られ、住民にとっても普段前を通りすぎる建物の中で働いている人と顔が見える関係ができたことで、施設に対して親近感や信頼感を抱いてもらうことができた。スタッフ側も施設外で地域住民や他の施設と交流することで刺激になったとの声がある。</p> <p>福祉施設の利用者・入所者が来場し、地元住民と旧交をあたためたり、子ども達と交流することで、いつもと違った笑顔を見ることができたという声もある。</p> <p>障害者施設利用者や高齢者施設入所者が来場者の前で体操の模範や踊り行う活躍の場</p>

	<p>があり、多様な住民が集い交流し、時には活動の成果を発表することで相互理解を深め、誤解や偏見を失くす効果を生んできた。</p> <p>③若者のパワーが加わろうとしている</p> <p>地域の魅力を内外に発信できていないために若者の流出が起きて地域活力が低下するという課題については、ふふふ祭りをこれまで7回開催する中で地元の団結力や可能性を発見した若者が、建部おこしプロジェクトとして発信する側に回り、地図を使ったワークショップを企画したり、自分達でマルシェを開催するなどの活動に繋げている。</p> <p>地元の20～30代の若者が発信することで、若い世代の共感を得、町外で暮らす地元出身者や自然豊かな地域で暮らすことを望む層に福渡地域での生活をPRできるようになった。</p> <p>また、今後は小中学校が地域学習の場としてイベントに参加することも検討されており、イベントの現場で地域に関わる青年の背中を見る機会となる。</p>
<p>今後の活動展開 など展望</p>	<p>◎成果の普及や今後の活動展開など展望について記載してください。</p> <p>①ふくし祭りから福祉の町をつくる</p> <p>ふふふ祭りは、多様な立場の多くの住民が集まって自分達の暮らす地域について考えることで、誰もが安心して生活できる町の未来像を考える機会となることを願って継続開催されており、来場者は例年約350人となっている。福渡小学校区の住民に一人でも多く参加してもらいたい地域交流イベントなので、移動が困難な住民が来場する方法などを考えていきたい。</p> <p>特に障害者や高齢者が自立した生活が営める現在の地域を維持し、町全体がデイサービス機能をもつことで住み慣れた地域で暮らし続けることを目指し、なんらかの福祉サービスが必要になった時はイベントを通して交流した福祉施設を安心して利用できる関係を築き、元気な時も、障害があっても、高齢になっても安心できる町づくりを目指す。</p> <p>②より多様な主体がつながるイベントを目指す</p> <p>第8回目となる平成28年の開催は悪天候が予想されたために中止となったが、準備段階においてこれまで以上に若い協力者が増えていた。</p> <p>特に、建部おこしプロジェクトと建部中学校の参加はこれまでにない新鮮な風を吹かせてくれ、既存の実行委員も期待するところであった。</p> <p>建部中学校は、「地域に出て行こう」と言うスローガンのもと、吹奏楽部の演奏や有志による会場ボランティアを予定していた。</p> <p>建部おこしプロジェクトでは、ワークショップで「今ある地域資源や魅力の見直し」と「これからの地域の未来像」について考えてもらい、地図を作成する催しを企画していた。他のイベントでも実施し、様々な情報を重ねた地図を作成し、いずれ立体化し駅や大勢の人が利用する公共施設に設置することができれば、観光客や外国人などにも一目で地域のことが伝えられるものになるという計画であった。</p> <p>また、平成28年より着任した地域おこし協力隊の参加や、廃校となった県立福渡高校跡地にできた岡山・建部医療福祉専門学校が新たな展示物を作成するなどの動きもあった。</p> <p>第8回では実施できなかったが、第9回に向けてたっぷりと時間がある中で、それぞれの計画をより良いものにしていけると考える。</p> <p>特に次代の担い手である中学生や高校生が参加することで、地域とつながり、地域を考える機会にしたい。</p>

③地域の魅力発信は若者達から

若い世代が仲間に加わることで最も期待するのは、20～30代の地元の青年達が地域について考え活動する姿を中学生や小学生が見ることで「カッコよさ」や「憧れ」を感じてもらい、郷土愛の種をまき、進学で一時故郷を離れたとしても「帰ってくる」という選択肢を持ってもらい、人口減少に歯止めをかけることである。

そうすることにより、現在の人口、社会・生活資源がこれ以上減ることなく、安心して生活できる地域になることを目指す。

第8回 ふくわたり

ふれあい

ふくし祭り

10月1日(土) 10:00~14:00

建部支所横駐車場・建部町公民館

オープニングイベント★ 建部はっぽね太鼓・OKAYAMA! 市民体操

出店コーナー★ たこ焼き・焼きそば・うどん・雑貨など

展示・カフェコーナー(公民館)★ コーヒー・ジュース・地域団体による展示
福っ子ポスター展示会
ESDコーナー「夢マップを作ろ〜う!」

ふふふ音楽広場★ 建部中学校吹奏楽部・オカリナ野の花・手話クラブ
ピリカフラワーズ(フラダンス)

みんなで踊ろう! たけべよいとこ!★ 会場の皆さんで踊りの輪を作しましょう!

福あたりビンゴ大会(13時半~)★ 商品券はじめたくさんの景品を用意しています

※荒天の場合は中止します

P 駐車場に関するおねがい

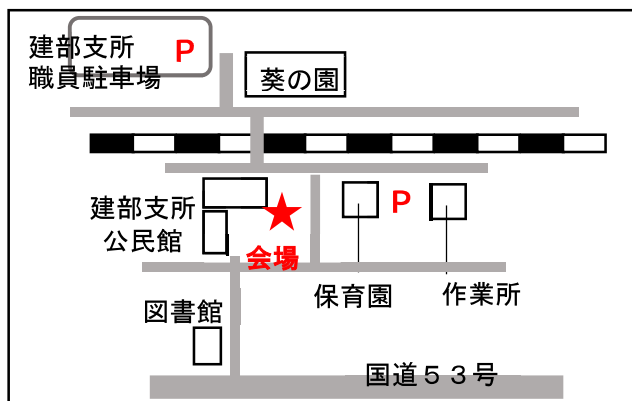
ふふふ祭りへのご来場は、福渡第二保育園の駐車場もしくは、踏み切りを越えた旧福渡中学校跡地の建部支所職員駐車場をご利用ください。

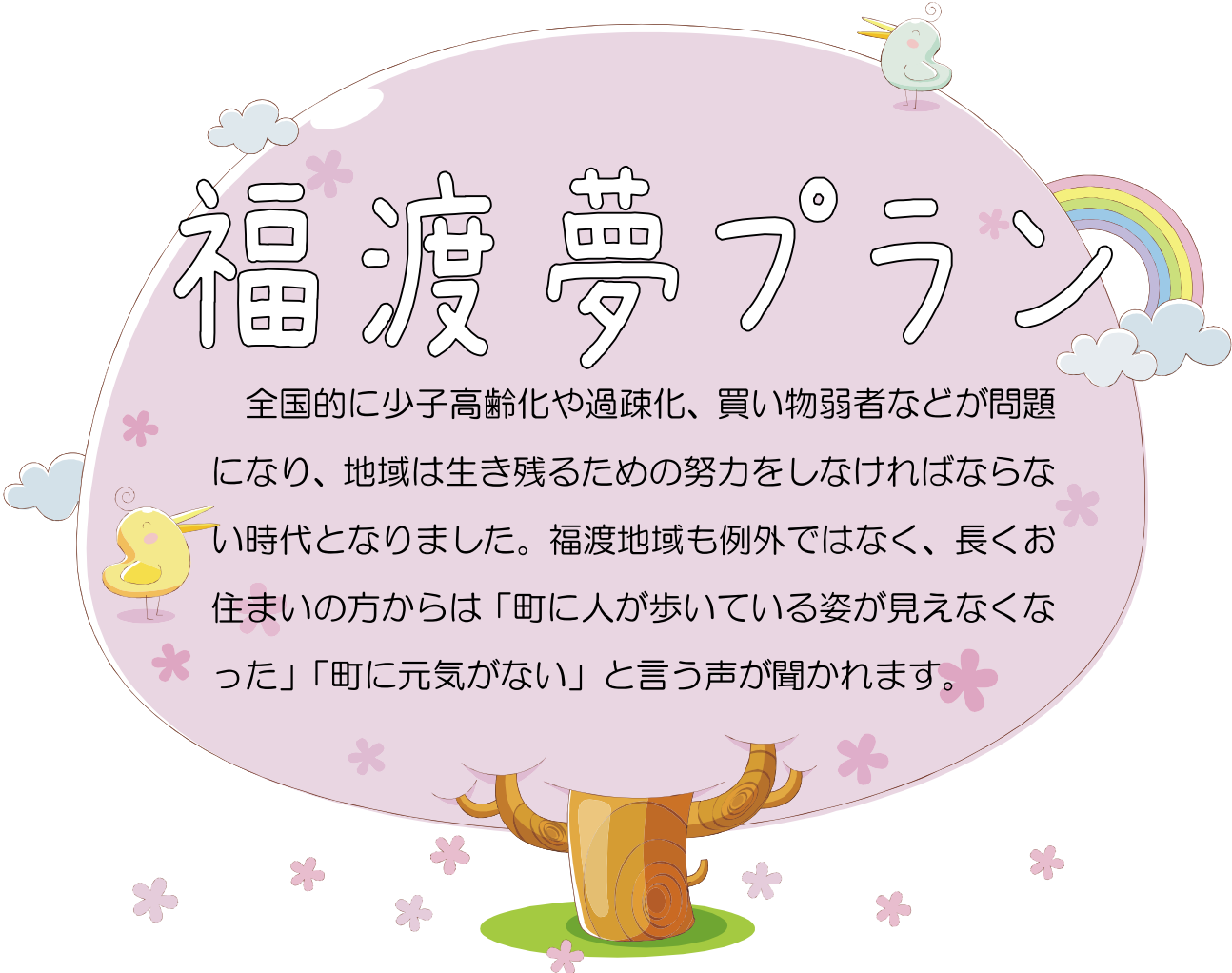
主催：ふふふ祭り実行委員会

問合せ先：NPO法人なでしこ会

(障害者生活支援センター)

建部町福渡 834-2 TEL:086-722-5200





福渡夢プラン

全国的に少子高齢化や過疎化、買い物弱者などが問題になり、地域は生き残るための努力をしなければならない時代となりました。福渡地域も例外ではなく、長くお住まいの方からは「町に人が歩いている姿が見えなくなった」「町に元気がない」という声が聞かれます。

元気がない地域を立て直すため、国は歩いて行動できる範囲に生活に必要な諸機能が備わった「コンパクトシティ」という都市政策を進めています。

そこで改めて、障害者や高齢者の視点で福渡の町を見直してみました。

JR福渡駅や建部支所を中心に、歩いて移動できる範囲にたくさんの生活資源・事業所がそろっています。確かに昔に比べれば地域から活気が減り寂しくはなっているけれど、今求められているコンパクトシティとして、福渡は機能していることに気がきました。

子どもの時も元気な時も、障害があっても、高齢になっても安心してこの地域で暮らしたい。100年先も笑顔があふれている故郷であってほしい。他では失われてしまったけれど、福渡には残っているこの魅力を生かした「福祉の町づくり」の可能性を皆さんで考えていくために「福渡夢プラン」を提案します。

福渡がもってる可能性!

- 旭川が町を貫いていて、緑もたくさん。空気がきれい。
- JA岡山福渡の北にある感知式信号から特産販売所前の三本松辺りまで約1.5 km。これは徒歩で約17分の距離。
- JR福渡駅がある。
- さくらバス、生活バスが通っている。
- 岡山市北区役所建部支所がある。
- 色んな金融機関がある。
- たくさんの医療・福祉サービス施設がある。
- 様々な商店がある。
- 公民館、図書館などの教育施設もある。
- 福渡高校の廃校は残念だけど、広大な敷地が活用されるのを待っている。
- 失せ物の神様・畦越様が見守ってくれている。
- 福渡って名前がイイ。



トマト銀行

たけるべ

公民館

建部支所

旧保健センター

障害者生活支援センター

消防署
建部支所

建部町

観光協会

コミュニティハウス

八幡歩道橋

大銀杏

山陽新聞社
福渡支局

福渡郵便局

なでしこ共同作業所

商工会
建部支所

中国銀行

失せ物の神様
畦越様

デイサービス
センターわかば

祀妙福寺

福渡高校跡地

福渡第二
保育園

友愛の丘

ヒゴヤ内科
歯科

FJ 福渡
八幡神社

ほのぼの荘

福寿苑

福渡病院

杉山歯科医院

福渡駐在所

旭水荘

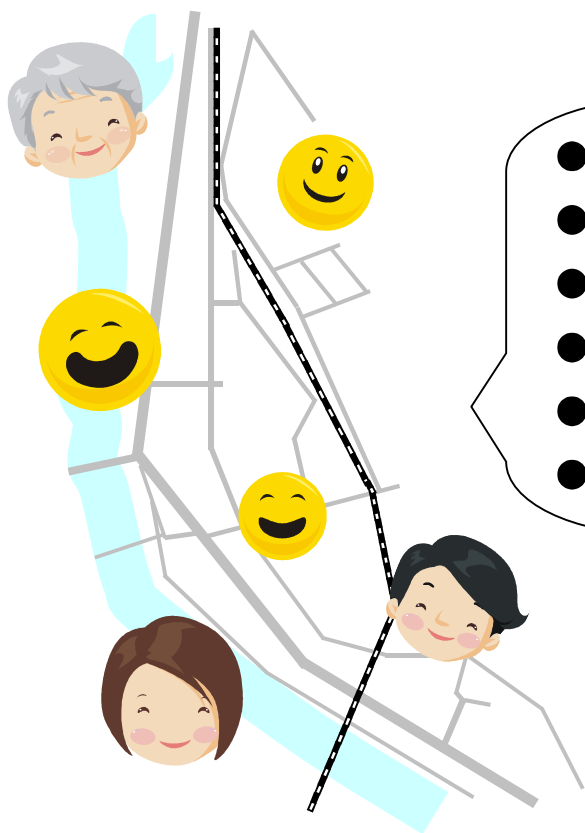
岡山方面

福渡の魅力を生かすアイデア

- 建部町のいろんな地域から、福渡に伸びる交通網がもっと整備されたら便利。生活福祉バスをもっと色んなところで活用できないか。
- 福渡に来れば色んな用事を済ませたり、人と交流したりで一日を過ごせるような、町全体がデイサービスの機能をもてたら。
- 周辺部の高齢者を対象にした買い物ツアーを商店街と福祉バスがタイアップして定期的の実施できれば。
- 行商や注文販売があれば便利。
- 空き店舗などを地域密着の福祉サービスを提供する場として、若い人たちを外から呼び込み活用してもらう。
- 町の中に休憩スポットやベンチをもっと増やして一休みできる場を繋げていく。
- 足湯や公衆浴場をつくってゆっくり一日交流できる場にする。
- 公衆トイレや開放トイレがあれば安心して行動できる。
- 福渡高校跡地に高齢者共生住宅をつくって、全国から入居者を募集して人口を増やし、町の資源を利用してもらう。
- 福渡コミュニティハウスなど公共施設を開放スペースとして活用を促す。
- 住民が地元で買い物をし、商店は住人のニーズに合わせた品そろえを工夫する。
- 福祉施設の充実した町にある失せ物の神様・あぜこし様を福渡のシンボルとしてもっと活かす。
- 高齢者の知恵や技の伝承をする場があれば、世代の交流に繋がる。
- 高齢者が歩きやすいよう路面や標識の整備をして、ユニバーサルデザインの町にできないか。
- 空き家バンクなど、外から人が新たに入れる態勢をつくろう！
- 居酒屋や旭川を活用した釣り堀など、男性も楽しめる交流の場がもっと欲しい。

みんなで夢のアイデア集をつくろう！

「福を渡し、福が渡る町」を目指そう!



- 高齢者や障害をもっている人が生活しやすい町
- 死ぬまで安心、死んでも安心の町
- 人がゆきかう町
- 気軽にあいさつしてお喋りできる町
- 歩いて生活できる町
- 商店街に活気がある町

元気で長生きしたいなら、福渡が一番!

モノを売る商店街から、生活を丸ごと支える町へ

あぜこし様をシンボルに「岡山の巣鴨」をめざそう!

本案は福祉の視点からの提案ですが、いろんな分野の組織や個人が力と知恵を出し合ってより住みやすい町にしていけば、この夢プランは夢でなくなり、現実の町として私たちの生活を支えてくれるのではないのでしょうか。

この「福渡夢プラン」は今後もたくさんの方のご意見を吸収して、何度も練り直していく予定です。ご意見・ご感想・情報などありましたら、下記へお寄せください。

編集：NPO法人なでしこ会 〒709-3111 岡山市北区建部町福渡 465-1

電話&FAX：0867-22-2388 E-mail：npo-nadeshiko@helen.ocn.ne.jp